

## 日本新生児成育医学会 2021年度 第3回理事会 議事録

日 時：2021年5月10日（月）15：00～17：00

開催方法：Web会議システム zoom を利用

出席者：早川昌弘，諫山哲哉，茨 聡，大曾根義輝，河井昌彦，河野由美，高橋尚人，長 和俊，中西秀彦，長谷川久弥，飛弾麻里子，廣間武彦，福原里恵，水野克己，細野茂春，森岡一朗，和田和子（各理事）  
中村友彦，与田仁志（各監事）東海林宏道，北東 功，松本 敦（各幹事）

欠席者：日下 隆，和田雅樹，芳本誠司（各理事）

（敬称略）

議 事：

### 1. 理事長報告

#### 1) 年会費請求の件

2021年度は全会員2,672名中，名誉・功労会員133名を除く2,539名のうち，延べ1,604（63.1%）（4月22日現在）より納入され，代議員費を合わせて21,346,000円の会費納入となった。

#### 2) 次回理事会・社員総会の件

8月・11月にwebでの開催を予定している。日程についてはその都度調整を行う予定である。

#### 3) 通信理事会議決結果報告の件

議決を取ったものは2件，そのほかのお知らせ等は2件であった。

#### 4) 2021年度会計途中経過報告の件

1～3月分までの一般会計について報告があった。事務局より会費収入率が昨年に比べて低い状況となっていることと教育セミナーの開催が11月になった旨報告があった。

#### 5) ロクロニウムの件

日本麻酔科学会のガイドラインで「ロクロニウムは新生児・乳幼児に対しての使用は推奨されない」と明記されたことについて，関連学会に意見を伺い，各学会からの回答が供覧された。おおよそは小児にも使えるようにすべきとの意見であったが，小児外科学会からは継続審議との返答があったため，揃い次第，審議予定である。

#### 6) 日本小児科学会の働き方改革WGで「新生児医療体制・医師勤務状況に関するアンケート調査」フォーマットを流用する件

本学会が作成したアンケートフォーマットを日本小児科学会が流用することにつき，理事長決裁で使用を許可した。ただ，使用については検討中とのことである。また，他の分科会でも同様のアンケート調査で使用する可能性がある。

#### 7) 理事長職務報告

通信理事会の発信，寄付リストの作成，ロクロニウムの対応等を行った。

### 2. 協議事項

#### 第1号議案：寄付募集の件（早川理事長）

一般企業を含めた寄付先43件と担当者を記載した資料が供覧された。リストに医学医療系出版社を追加し単年度ずつ各担当理事・監事・幹事から企業に依頼いただくこととする。寄付金の額は一口20,000円とし，寄付していただいた企業は学会ホームページに掲載する予定である。

#### 第2号議案：日本新生児成育医学会 認定新生児成育フォローアップ医（仮称）制度の件（高橋理事）

ワーキンググループを立ち上げ，高橋理事，河野理事に加えて広報委員会，教育委員会，医療の標準化委員会，医療の質向上委員会から委員の推薦を依頼するほか，本学会代議員を中心にフォローアップ，小児神経，

在宅ケアの各専門分野から、委員の推薦を依頼することが承認された。

### 第3号議案：学会公式ツイッターアカウント作成の件（水野理事）

学会員を増やすため、ツイッターを利用して学会誌や学術集会の案内を行うことが提案された。代表アカウント以外に学会員・学会誌・一般市民・掲示板など複数のアカウントを作成し当学会から有用な情報を含めてツイートすることで社会貢献ならびに学生に新生児医療に関心を持ってもらうことを期待する。アカウントを作成することについては承認されたが、深刻なクレームが来ることも視野に入れさらに検討を行う。また、現在の学会ホームページには一般向けの情報が少ないため、コンテンツを増やしていくことについても提案があった。

### 第4号議案：「選定療養として導入すべき事例等」の提案・意見について（和田雅樹理事・代 早川理事長）

例年、診療報酬改定の議論とあわせて、選定療養に導入すべき事例等に関する提案・意見募集を内保連が行っている。締め切りは令和3年6月15日（火）までとなっているので、意見があればお寄せいただきたいと呼びかけられた。

### 第5号議案：学会将来構想委員会：新生児医療提供体制・医師勤務状況調査結果流用の件（高橋委員長）

新生児医療提供体制・医師勤務状況調査結果が10月発刊の学会誌に掲載される予定であるが、事前に広報委員会がチェックした上で、学会ホームページの会員専用ページに公開することが承認された。追って原著論文にする際に二重投稿に当たらないよう、主要なデータのみを掲載する。

### 第6号議案：医療の標準化委員会：ガイドライン作成メンバーの公募の件（諫山委員長）

新生児慢性肺疾患の診療指針の改訂を行うにあたり、会員からメンバーの公募を行うことが承認された。このメンバーは、今後本委員会が作成していく様々なガイドラインの作成に積極的に関わっていく人材の公募となる。人数制限や年齢制限は設けない予定である。

## 3. 第65回学術集会の件（会長長）

2021年5月7日（金）～9日（日）にweb開催で盛会のうちに終了した。最終日（5月9日）時点では招待者を除き1,029名の登録があった。5月12日（水）からシンポジウム等にディスカッションを含めたものを配信する。この事後配信は6月14日（月）まで延長されることとなった。今後、現地開催が復活した場合もweb併催の要望が出るのが予想されるため、次年度以降の会長に引き継いでいくようにする。

## 4. 第66回学術集会の件（長谷川会長）

2022年11月24日（木）～26日（土）にパシフィコ横浜とwebのハイブリッド開催を予定している。今後、理事・監事の先生方から企画案をお願いしたい。

## 5. 各種委員会報告

### 1) 学会将来構想委員会（高橋委員長）

新生児医療連絡会と共同で行った新生児医療提供体制・新生児医勤務状況の全国調査について、解析が一定程度終了し、第65回新生児成育医学会で報告を行った。調査では医師の勤務状況が大変厳しい状況にあることが判明したため、今後の医療提供体制将来ビジョンについて、web委員会で検討したいと考えている。地方によって状況がかなり異なることも分かったため、それぞれの都道府県で検討する必要があると思われる。追って新生児医療連絡会でも報告予定である。

### 2) 調査研究審査委員会（高橋委員長）

感染対策予防接種委員会で提案されたロタウイルスワクチンの調査について、委員長と外部委員の河原先生とでメールで意見交換を行い、倫理審査を受けた方がよいとの意見をいただいたため、森岡委員長にお伝えした。

### 3) 診療委員会（芳本委員長：欠席）

特になし

### 4) 男女共同参画推進委員会（河野委員長）

5月8日(土)9:00~10:30第65回学術集会で委員会主催プログラム「みんなが働き続けられるNICUをめざして」を開催した。NICUの勤務体制と女性医師の働き方に関する事前アンケート結果は、学会誌にまとめを報告予定である。本学会の女性役員の割合が女性医師会員に比して少ないため、今後、委員会で改善策を検討していく予定である。定款等に女性理事の割合を設けることについて提案があったが、現状では難しいため、積極的に呼びかけていくこととなった。

5) 倫理委員会(福原委員長)

5月8日(土)13:15~15:15に第65回学術集会で委員会主催プログラム「倫理コンサルテーションを理解しよう」を開催した。外部の先生方からの意見もいただき有意義な時間となった。今後、第66回について企画を行う予定である。

6) 社会保険委員会(和田雅樹委員長:欠席)

1. 令和4年度診療報酬改定申請作業が進行中で、前回と同様、各学会から1~2項目を提案予定である。今回は特にエビデンス重視の方針が伝えられていて、7~8月にヒアリングが実施される予定である。

〈当学会からの提案〉出生前ハイリスク新生児カウンセリング加算

〈共同提案〉出生後ハイリスク新生児カウンセリング加算(日本周産期・新生児医学会)、アルブミン非結合ビリルビンの測定期間延長(日本周産期・新生児医学会)

〈その他〉以下の項目も共同提案の予定(調整中)。

小児静脈麻酔加算(日本小児栄養消化器肝臓学会)、遺伝学的検査(日本人類遺伝学会)、オクトレオチド間歇注入ポンプ加算(日本小児内分泌学会)、コレスタノール測定(日本神経学会)、小児(乳児)在宅ハイフローセラピー加算(日本小児呼吸器学会)、先天性心疾患に対する低酸素(窒素吸入)療法(日本小児循環器学会)。

2. Web委員会を開催し、上記の診療報酬改定に向けた議論を行った(以後はメール審議)。新生児特定集中治療室管理料の算定対象に関する問題点を共有するとともに、患者要件、疾患要件の検討を行っていくことが話し合われた。高度NICU加算を今後、委員会として検討していく。NO吸入療法はNOの薬事としての適応拡大が先決であることを共有した。

7) 感染対策予防接種委員会(森岡委員長)

1. 「早産児への抗菌薬使用方針ならびに各施設の多剤耐性菌感染対策のアンケート調査」と「NICUにおけるロタウイルスワクチンの定期化への対応に関するアンケート」計画について

・抗菌薬・感染対策アンケートについては、研究費を獲得できたため、基幹施設(京都第一赤十字病院)の倫理審査で承認された。各施設の倫理委員会を通す必要があるかどうかについて、本学会の調査研究審査委員会に諮り、その後理事会に報告して研究調査の承認を得る予定である。

・ロタワクチンに関するアンケートについては、質問内容の調整と基幹施設(日本大学)での倫理審査を計画する。上記と同様、本学会の調査研究審査委員会に諮り、その後学会理事会に報告して研究調査の承認を得る予定である。

2. 小児呼吸器学会との小児RSウイルス呼吸器感染症ガイドラインの作成の進捗について、前期の理事会での承認のもと、日本小児呼吸器学会と連携し小児RSウイルス呼吸器感染症ガイドライン2021を作成し、(株)協和企画から発刊間近の段階にある。印税は両学会で折半予定として、日本小児呼吸器学会、本学会、(株)協和企画との出版契約を締結した。

3. 今後、新型コロナウイルス感染母体より出生した新生児の管理指針やNICU感染対策マニュアルなどの作成も検討している。

8) 薬事委員会(飛弾委員長)

通信理事会で承認された要望書「低出生体重児に投与可能な酢酸亜鉛水和物製剤の開発推進及び早期承認のお願い」を3月19日(金)付で厚労省に提出した。薬品メーカーからは4月中に医薬品医療機器総合機構

に企業主導治験について相談するとのことであった。

9) 広報委員会（水野委員長）

2月18日（月）と4月16日（金）にオンラインにて委員会を開催した。SNSでの広報開始に伴い、学会ホームページをスマートフォン対応とすることについて検討しているため予算や納期等について改めて協議いただく予定である。

10) 教育委員会（中西委員長）

- ・第7回医学生・研修医向け NICU 入門セミナー

2021年8月28日（土）13～18時に参加費無料で、募集を開始している。定員は50名だが、現時点で約60名の申し込みが来ている。開催前のオンデマンド講義、当日はライブ配信講義、バーチャルホスピタルツアー、グループワーク、パネルディスカッションを予定していて、講師は現在選任中である。

- ・第24回教育セミナーについては開催を11月としてプログラム案を検討している。

- ・第65回日本成育新生児学会において委員会主催プログラムを開催した際、統計の相談窓口を作れないかという話が出た。今後、ウェビナーなどで講演することも検討していく予定である。

11) 産科医療補償制度対応委員会（細野委員長）

特になし

12) 医療安全委員会（大曾根委員長）

特になし

13) 災害対策委員会（茨委員長）

特になし

14) 医療の標準化委員会（諫山委員長）

4月28日（水）に委員会を開催し、慢性肺疾患診療指針のガイドラインの改訂（厚生労働省の研究代表者：難波文彦先生、分担研究者：諫山委員長、中西委員）について委員会で進めることとなった。CLDガイドライン第2版監修者の藤村先生・田村先生からも快諾いただいている。具体的な日程等については現在検討中である。

15) 医療の質向上委員会（長委員長）

4月9日（金）現在、「新生児偽性低アルドステロン症」の登録が15件、「MIRAGE 症候群および MIRAGE 症候群関連疾患」の登録が7件、「新型コロナウイルス感染症の母体から出生した児」の登録が23件あった。第65回学術集会で、調査期間を終了したものも含む4疾患（「新生児血球貪食性リンパ組織球症および新生児ヘモクロマトーシス」、「先天性トキソプラズマ感染症」、「サイトメガロウイルス関連敗血症様症候群—最近の進歩と国内の状況—」、「新生児偽性低アルドステロン症」）について報告を行っている。ぜひオンデマンドで視聴していただきたい。

16) 学会誌編集委員会（河井委員長）

英文誌 WG についてニーズ調査のアンケートを取ったところ 250 名中 101 名から回答をいただいた。うち約 80% の先生方から賛成の回答をいただき、校正などの指導をしてほしいという意見も出た。発刊には年間 150 万円程度かかるため、前向きに検討すべきかさらに協議を行う予定である。なお「現在の学会誌に英文論文の投稿をしたいか？」の問いには「今の学会誌に英語で論文を投稿するメリットはない」との回答が多数だった。

17) 国際渉外委員会（日下委員長：欠席）

特になし

18) 総務委員会（和田和子委員長）

特になし

19) 学術委員会（長谷川委員長）

2021年10月15日

7月26日(月)18:00～19:00に細野茂春先生、森岡一朗先生に講師を依頼し、ウェビナーを開催する予定である。

20) 利益相反委員会(廣間委員長)

特になし

21) その他

- 海外留学中の会員に対する会費の猶予や免除について総務委員会で関連学会等を調査し検討することとなった。
- 理事長から黄疸の基準が決まっていないため、医療の標準化委員会等で提言をしていくべきではないかとの意見が出された。また、「新生児」に加えて「成育」についても今後さらに活動を広げていきたいとの抱負が述べられた。